



Subaru

男声合唱団

ニュース No.181 09. 9. 17

資料

男声合同曲「光のエチュード」
関西合同曲「我が窮状」

「光のエチュード」の 十二ワの歌う巨人「パギyan」はこんな人



写真提供は橋本さんから

【共催】イラクの子どもを救う会 / しなやかな平和のつげキ/EGピース / イラクの子どもを支援するおおさか市

さて、今書いたようなことが日々繰りあって、そして様々な事情や時代を経て、この頃私は「浪花の唄う巨人・パギyan」と自称している。(中略)要するに、「ワタシヤ、世間ではフツーとちゃう」んや…その自覚があるから「浪花の唄う巨人・パギyan」を使う。「唄う巨人」の異名は、なかなか心地よいものだ。

愛称「唄う浪花の巨人」。大阪市西成区出身、在日韓国人2世。大学でロシア語を、大学院で教育学を専攻。元・関西大学、河合塾講師。ブルース・ジャズ・ロック・フォークは勿論のこと、朝鮮や韓国の古典民謡やニホンの浪曲も得意で、年間ライヴ数は百回に迫る。2002年から「歌うキネマ」を始め、一本の映画を独りの唄と語りで演じている。演目は「ホタル」「マルコムX」「風の丘を越えて」「砂の器」「パッチギ！」など。

私は自分の音楽を「闘いの音楽」と言ったが、その理由について次のような説明をしておきたい。「マイノリティが排除されるのは、しばしばマジョリティの確立した「人間」の基準外にあるとみなされるからである。その判断はしばしば幻想的である。(中略)またその判断は、しばしば現実的な葛藤に対する忌避に根ざしている。マイノリティに対する様々なタイプの判断や知覚は、自己や自分の集団や、あるいは一般に「人間」の意識と相対的である。(中略)マイノリティは、人間がどんなふうに生命を迎え、生命を排除しているかという問いをもって生きざるをえない。

それは政治の問い合わせであり、創造とはなにかという問い合わせであり、そしてカフカが予言したように「生死」にかかる「問い合わせ」である。私もハシクレとして、その「問い合わせ」を供出している。日々のライヴやCD製作、大小のメディアへの露出は、常に「問い合わせ」なのだ。「癒し」や「娯楽」ではなく、まず「問い合わせ」なのである。畢竟[ヒッキョウ]するに「闘い」だ。客と対峙する己と、二重三重に向かい合って、「問い合わせ」を表現する。「癒し」や「娯楽」は、そのアクチュアリティのなかからしか出てこない。

・・・・「唄う巨人」の名前に相応しい、「闘い」が作り上げた奥深い人物のようです。上の記事は、インターネットで検索できる「パギyan」に関する沢山の記事のほんの一端です。

(1/2)

■自己紹介

(前略)

「日本に来られて長いのですか?」と訊かれることが多い。「そうですね、祖父の代からですから、かれこれ80年になりますね」と答えると、「どおりで、日本語がお上手だ」とか「韓国語は喋れますか?」と来る…俺は、大阪生まれで日本語のネイティブ・スピーカーぢや。日・韓・英の3ヶ国語はお前より上手いワイ!と怒鳴りたくなる。世間一般では理解しがたいらしい。

「立派な体格ですね」(注;182cm、体重百余キロ)と言われることが多い。「そうですね、ずっと柔道をやってまして、講道館二段ですから」と言うと、「ご健康でなにより、羨ましいです」と来る…俺は、子供の頃結核にかかって難儀したし、右目は失明しているので一応「障害者」のハシクレである。世間一般には理解しがたいらしい。

関西合同曲「我が窮状」によせて

京都新聞

2009年(平成21年)5月3日 日曜日 の記事

京都市出身の歌手沢田研二さん(60)が還暦を迎えた昨年、自ら作詞したバラード曲「我が窮状」を発表した。詞は、あえて「憲法」や「九条」という言葉を使わずに

平和への思いを伝える。なぜ今、ジュリーはこの曲を歌うのか。憲法記念日に合わせて、胸の内を聞いた。

(聞き手 三好吉彦)

危うさの足音

憲法記念日インタビュー

さわだ・けんじ 1948年生まれ。27年にザ・タイガースでデビュー。20年からソロで活動。20年に「勝手にしやがれ」で日本レコード大賞受賞。昨年は還暦記念で大阪と東京ドーム公演を開いた。今年は7月18日に京都会館でコンサートを開く。「我が窮状」はアルバム「ロックンロール マーチ」に収録されている。

昔から平和への思いはあります。デビューしたころはベトナム反戦とかで学生運動が激しく、同世代の多くはデモをしていたわけですから。でも僕は表立っては言えなかつた。だつてジュリーと呼ばれ、「君だけに愛を」とか「モナリザの微笑」を歌っている男が平和や憲法を語つてもあわないのでしょ。商業ベースに乗った奴が何言うてんねんと言わられるのが落ちと思っていた。六十歳になつた今なら、言いたいことを言つてもいいかなと。憲法は米国から与えられたと言う人もいるけど、歌にも入れたように、「英靈の涙に変えて 授かつた宝だ」と思います。

特に惹かれるのは九条の戦争放棄の部分。やられたらやり返す」じゃ

平和への思いを伝える。なぜ今、ジュリーはこの曲を歌うのか。憲法記念日に合わせて、胸の内を聞いた。

(聞き手 三好吉彦)

ジュリー平和を歌う

若い世代に、背中を見せていきたい



「忌まわしい時代に 遷るのは
賢明じやない」と思う。

もちろん北朝鮮の脅威もある。でも、先日のミサイル騒動で、日本が迎撃していただらどうなつていたか?。僕は、相手が対話に応じ

ない。一対一のケンカと国同士の戦争は違う。戦争は望まない人まで巻き込む。家族が犠牲になつたら「国のために」で済まないでしょ。安倍晋三首相の時、改憲論が盛んに出た。今も九条が窮状にあることに変わりはない。大っぴらに九条を歌詞に入れるのは気が引けるので、歌は「我が窮状」と題してアルバムの九曲目に収録した。

憲法とか大きな問題に対し、個人の力はちっぽけなもの。でも、言葉には出さないけど九条を守りたい

「この歌を歌つて、憲法を思つている人がいっぱいいる。「僕もたかつた。「諦めは取り返せない過ちを招くだけ」ですから。僕は戦争を知らずに育つた。それでも、子どものころ、四条畷で傷痍軍人さんがアコーディオンを弾いていたし、進駐軍もいた。母校の第三錦林小(左京区)や岡崎中(同)では、いつも授業脱線する面白い先生がおり、時代が変わつたから、こんな話もできるようになつた」と言つていた。

と願う人はいっぱいいる。「僕も同じ思いですよ」とサインを送りたかつた。「諦めは取り返せない過ちを招くだけ」ですから。

僕は戦争を知らずに育つた。それでも、子どものころ、四条畷で

掲載紙をスキャンしてそのまま載せようとしたが、判読しづらいので、原文のまま転記しました。ただしジュリーの写真は京都新聞掲載のものと異なります。記事提供は若園さん。

一市民として、歌を通して発言し、背中を見せていきたい。